

令和4年度3学期終業式あいさつ

おはようございます。今回はリモートではなく、みんなが体育館に集まって、式を実施することができました。みなさんにとって体育館で一斉に行う式は初めてとなりますが、水工という一つの学校で、5つの専門科、先輩後輩、先生も一緒に生活し、誠実に頑張っていることを実感できる機会です。これからは、この空気を、今度入学する後輩たちとも共有できればいいと思います。

本日、いよいよ令和4年度最後の登校の日となりました。一年間一緒に頑張った仲間と今年度を振り返り、反省事項を来年度に活かせるよう、ともに成長を図りましょう。

さて、今年度も新型コロナウイルスによって様々な制限を余儀なくされましたが、本校創立60周年の今年度、みなさんは勉強や実習、各種行事、また資格取得や部活動に、よく頑張りました。

コロナも3年付き合ってやっと扱いが変わり、これからウィズコロナと呼ばれる社会へと移行していきます。先週、マスクの着用について、学校では新学期から、基本的に不要の方針が政府から示されました。少し楽になる気がしますね。また、それに先だって生活上の「5つの基本」が示されています。みなさんも関心を持ってそれらのことを確認したと思います。その「5つの基本」の中にもありましたが、特に水工のみなさんに考えてほしいことがあります。これまで我慢して、手指消毒やマスクの着用、密の回避やディスタンスの確保に頑張ってきたことは、一体何のためだったかということです。

マスクの着用は個人の判断に任せる、ということになりましたが、その判断の根拠が、自分が楽だから、だけでいいのでしょうか。

思い出してください。自分を守ることは当然ですが、それらの行動によって、お年寄りや病気の人など、より弱い立場の人達を守る目的もあったのではないのでしょうか。身の回りにはそういう弱い立場の人たちが間違いなく存在します。生徒、先生を含めて1000人という本校においても、自分のそばには必ず、守るべき存在がいるということを、忘れずにいてほしいと思います。つまり、みなさんには、場面に応じたマスクの着用その他の対応を、弱者への配慮を伴ってできる人であってほしいということです。

もうひとつ思い出してください。みなさんが中学生あるいは小学生だった平成30年に、この地域を大きな災害が襲いましたね。この中にも被災した人もいるでしょう。思い出したくない場面だったらごめんなさい。ですが、私の伝えたいことは、このときの、皆さんの先輩である水工生の、行動の裏にある心の素晴らしさです。私は水工の校訓にふさわしい、とても誠実な行動だと感心し、大いに褒めたことを覚えています。

それはどういうことか。一般的に考えると、災害のときに即座に被災地に行って、復興のために働くということになるのでしょうかけれど、皆さんの先輩は、災害発生後すぐに現地に乗り込むことはしませんでした。何もしなかったわけではありません。大変な場所に、何ができるかわからない自分たちが大勢押しかけても迷惑なだけだから、状況を見極めて、本当に必要とされていることを手伝うという判断です。公的な機関による、現地からの情報を受けて手伝いに赴いたり、水没してしまった、大切な思い出の写真をきれいに洗うボランティアを行ったり、何かをしたい自分の気持ちだけでなく、相手の立場に立った判断と行動ができていたのです。「いいことをしました」という自己満足よりも、本当に大切にすべきことが理解できている、水工の伝統的な魂が、本物として生かされた場面でした。

言いたいことはだいたい理解できたと思います。今回のコロナ禍という災難を乗り切ろうとしている私たちが、あらためて考えるべきこと、心に留めておいてほしいことを伝えました。今後も、思いやりを伴った行動ができることを、私たち水工の素晴らしい伝統として後輩に伝えながら、周囲に流されることなく行動に表してください。

冒頭に戻り、令和4年度を振り返り、いい年であったと言えればそれに越したことはありませんが、反省事項に気づくことも収穫であったと、ぜひ、一つグレードアップして始まる来年度に活かせるよう、今から対策をしてください。

来年度がますます充実したものになることを期待します。

それでは、4月10日の始業式に、元気に再会しましょう。

以上、令和4年度3学期終業式の挨拶とします。